

令和元年度 第3回 よこすか地域支え合い協議会 会議録

開催日時：令和元年11月12日（火） 午後2時より午後4時まで

開催場所：横須賀市役所3階 302会議室

出席者

【構成員】 15人

稲葉 抄子、森 弘樹、沼崎 真奈美、小林 二三代、増野 宣子、春山 誉夫、磯崎 順子、
小川 喜久雄、加藤 春樹、長雄 市子、千葉 順子、川名 理恵子、伊藤 弘道、
小貫 朗子、田中 知己（順不同、敬称略）、

【事務局】 6人

小林 幸男、河島 夏美、川田 貴久江、中山 ちひろ、馬場 潤、浅羽 優貴佳

【傍聴者】 4人

1. 開会

座長の司会により開会した。

2. 傍聴者の確認、配布資料の確認

欠席者、傍聴者の確認を行った後、配布資料を確認した。

3. 議事

（1）各地域（第2層）の取り組みについて

〔説明要旨〕

今回の会議から各地域の取り組みを議事の冒頭に設けた理由として、地域の動きが増えてきており、よこすか地域支え合い協議会として、各地域支え合い協議会の運営支援を行うためとの説明の後、事務局から資料1に基づき説明を行った。

〔質問、意見等〕

構成員：田浦地域でのアンケートの対象、内容はどのようなものか。

事務局：町内会に対して行い、生活支援、通いの場が町内のどこにあるかを聞いている。全てではないが、取り組みが見えてきた。今後は活動事例集を作るが、その過程でも活動を探す。

構成員：追浜地域では民生委員の支援が手厚いということだが、具体的にどういう動きか。

事務局：場合により、救急車の同乗もあるという。民生委員が担っていることの一部を地域で担えないかという考えでアンケートの必要性が協議されている。

構成員：アンケートの対象、目的はどのようなものか。

事務局：実際の個別の困りごとを聞き取るため、全戸アンケートを考えている。結果を町内

会に報告し、町内として困りごとを把握してもらうことを考えている。内容については、これから検討を進める。

構成員：地域の支え合い活動が増えてきた中で、支え合い協議会と地域内で似たような活動をしている団体の連携はあるか。例えば、地域運営協議会、老人クラブなどとの連携はどうか。一緒にしている活動があるのか。

事務局：具体的に一緒に活動している例はまだないが、アンケートでは、実施にあたり協力をいただいている。また、田浦地域では、地域運営協議会でベンチを設置する動きがあり、支え合い協議会からの意見があれば、検討すると聞いている。

(2) 各地域の取り組みからの検討事項

〔説明要旨〕

地域支え合い協議会での協議や支え合い活動に関する相談から、よこすか地域支え合い協議会として検討してはどうかと事務局が考えた2点の課題について、資料2に基づき説明を行った。

〔質問、意見等〕

「支え手としての活動への参加を促す取り組みについて」

構成員：参考に当方の町内会の事例を紹介したい。老人会の友愛活動と地域の居場所づくりをきっかけに、現在、生活支援活動を行っている。支え手を増やすという観点から、一昨年から老人会が中心となり、自治会、防犯、防災、民生委員、社会福祉協議会等と定例会議を開催し、地域の困りごとを共有している。各組織の役員に周知しつつ、若い力を引き出す取り組みを進めている。結果としては、地域全体に生活支援の必要性が芽生えていると感じている。

構成員：老人会は自治会町内会と別組織なのか。また、発起人がいたのか。

構成員：地域により異なるが、当方の場合には自治会の下部組織として位置づけられている。クラブ活動として行っていた「おもちゃの診療室」の活動、参加者から派生した。また、支え手確保の別の取り組みとしては、全戸アンケートの際に、得意な技能等も聞き取る項目を設け、活動に活用している。

構成員：特に男性に言えるが、退職後、それまで培った技能を埋もれさせない働きかけが必要であると感じている。そういった男性が参加しやすい講演会や、やってみたいと思える集まりの企画などが必要である。

構成員：先ほどの構成員の発言にあった取組は、地域の会議で広げていったのかと思う。単独ではなく、団体間の横の連携の必要性を感じる。

構成員：それまでも、断片的な協力はあったものの、体系的な協力が不足しており、生活支援活動を全町的な活動に持っていきたい意図があった。まずは、連絡会の形から入って、それぞれの組織の困りごと、地域の課題を一つずつ共有し、出来ることから連携し取り組んでいる。顔の見える関係づくりの結果、情報共有が円滑に行えている。また、市老人クラブ連合会の理事会でも事例を紹介し、地道に進めている。理

念だけ話しても、自分事となりにくく、身近な問題で「助けてください・助けました」といった例から話をしていけないと理解を得ることは難しい。

構成員：当方の地域では、夏休み前後に小中学校の地域懇談会があり、養護学校、町内会・民生委員・青少年推進員が集まる会を開催している。こどもサロンの開催等については、その場で課題を共有し、理解と協力を求めている。子どもの参加があれば、親の参加が期待できる。こどもサロンの参加をきっかけにPTAの役員になった人もいる。当会のメンバーの多くはPTAや青少年推進員・民生委員やそのOBで構成されている。明日の戦力には難しくとも、長期的な地域の戦力になっている。別の話になるが、先日、コミュニティセンターの文化祭に行ってきたが、以前より規模が縮小されている印象だった。参加者に話を聞くと参加団体は文化祭役員を出す必要があるということであった。コミュニティセンター利用団体は多いが、役員を出したがないため、規模が小さくなってきていると語ってくれた。ボランティア活動も人の役には立ちたいが、責任は担いたくないという人が増えており、気楽に取り組める工夫が必要であると感じている。

構成員：町内会も同様で役を担いたくない人が多い。町内会で生きることに視点を向けられるような取り組みが必要であると感じている。町内会の取り組みの根本は、地域とどのように生きるか、といったことであり、様々な活動、機会を通じて話をしている。例えば、子ども会の対象は小学校6年までであるが、卒業後も引き続き何かやりたいという親が数人おり、その気持ちを活かせるよう役割をもってもらっている。

また、高齢者の施設と協力し、町内からはお祭りの際にお神輿や盆踊りに出向き、施設からは栄養や体操の講習会の講師協力といった取り組みから、横のつながりをつくっている。

東京都荒川区では子ども会を支える団体が80位ある。行政として活動の拡大だけでなく、横の連携に取り組んでいる。自分たちの団体のことだけでなく、同じ町内・地域で生きていることを考えれば、支え手の問題も解決すると思う。

構成員：お神輿など具体的な事例が役に立つ。例えば、当方の町内会では、シニア食堂を開催しているが、人が集まるといった目的に留めず、防災担当と協力し、羽釜で炊飯を行った。そうすることで、相手方にも気づきが生まれ、相互理解が進む事例があった。

「支え合い団体と専門職の連携について」

構成員：当方の介護事業所の隣にスーパーがあり、認知症と思われるお客さんや転倒したお客さんの対応をすることがある。それには、顔の見える関係が重要であり、地域に根差した日々の活動が重要であると感じている。

構成員：以前、市内のデイサービスでは季節に応じ、施設から外出し、お花見などが出来ていたが、平成15年以降、規制が厳しくなった。現状も、外出するには、運営基準

や人員配置に面から、非常に難しい。地域と介護事業所が連携するには、その辺りの規制緩和が必要であると感じる。サービス事業所でありつつも、地域の社会資源でもあるので、介護事業所側からだけでなく、行政からも緩和に向けた取り組みがあれば良いと感じる。

現状では、心ある事業所がボランティアとして地域と関われる程度だが、環境を整えば、地域に出ていきたいと考えている事業所は多いと感じる。

構成員：介護事業所側から町内会に情報や協力の呼びかけがあれば、より一層、地域として動けて、関係が作れると考えていたが、難しい面もあるということを知った。

構成員：地域密着型の介護事業所が開催する運営推進会議に参加する中で、事業所側が地域に出ることが現実的に難しい面を感じているが、一方で防災に関しては、お互い協力したいという思いを感じる。そういったところから、調整が出来ればと思う。地域包括支援センターとして、支え合い活動に関しては、地域住民に話してはいるが、専門職に対しては不足していた面もあり、働きかけの必要性を感じる。勉強会で情報交換を行ったり、地域ケア会議では多職種連携をしており、そういった場面を活用することも一つかと思う。

構成員：怪我をして整形外科に行く機会があったが、診察患者より高齢者リハビリに来ていた人が多かった。カーテンで仕切られた個別のリハビリで横のつながりもない状況であった。地域と繋がる形を作れば良いのではないかと感じた。連携している事例は少ないのではないかと。

事務局：地域にリハビリ専門職がどのように出ていくか、ということは大きな課題である。病院、診療所の理解が不可欠となる。今後、専門職の働きかけは重要となり、地道な取り組みが必要である。薬局が地域向けに講座を開いている例もあり、そういった取り組みに繋がる仕組みが必要であると考えている。

構成員：来年、神奈川歯科大や東洋医学研究所、高齢福祉課が協働でフレイルに関するイベントを予定しているかと思う。市老人クラブ連合会にも声掛けがあったが、こういった中から、関係構築が始まると思う。

構成員：シルバー人材センターでは、入会説明会の参加者が増えている。年代としては、70代前後で、動機としては、ちょっと仕事がしたいが6割、その外では社会貢献したいという方が多い。こういった方々の活躍の場を増やしたい。例えば、市内に複数の拠点を作り、集いの場のように気軽に来れて、依頼の相談ができるような場が出来ないかと考えている。地域の元気な高齢者が虚弱の高齢者を支えるように、拠点をつくりたい。例えば、地域のボランティアセンターは毎日開設しているのか。

構成員：ボランティアのニーズ調整は週2、3回だが、地区によっては週5日開けている地区もある。場所によっては、子育てサロンやなんでも相談を行っているところもある。但し、それらを行うには、場所の問題もあり、現在、ボランティアセンターを地域の拠点として、どのように活かしていくかについて、各地区の所長と検討中である。また、家賃は市からの補助が出ており、市とも協議しつつとなる。

12月に地域福祉サミットを開催予定である。顔の見える関係をつくるきっかけづくりとして、昨年も開催したが、そこから具体的な取り組みも生まれてきており、今年には地域の活動を紹介し

ながら、地域で出来ることを考えてみようといった狙いで今年も開催する。顔が見えていれば、相談できるので、そこを作れるよう働きかけたい。

構成員：顔の見える関係は大切であると感じる。昨年の地域福祉サミットで、地域が買い物に困っていることが分かり、モデル的に期間を区切り、送迎バスの取り組みを始めた。始めて見ると、周りの町内からも声がかかり、少し範囲を広げて実施している。人員配置基準等の関係から難しいところもあるが、手探りでやっている現状である。

(3) 市全体（第1層）の取り組みについて

・支え合い活動への支援について

〔説明要旨〕

支え合い団体活動PR動画についてと今後予定している支え合い団体情報交換会について、資料4及び資料5に基づき説明を行った。あわせて、支え合い活動PR動画 長編版の放映を行った。

〔質問、意見等〕

構成員：動画を見て、湘南たかとり福祉村の皆さんのお気持ちや活動を始めたきっかけなどが分かり、良かった。支え合いの団体が増えてきているが、こういった団体と支え合い協議会の関係はどうなっているのか。湘南たかとり福祉村は、地域支え合い協議会が出来る前から活動されており、連携の形などを知りたい。

事務局：地域支え合い協議会は実際に支え合いの活動を行う組織ではなく、それらが生まれるよう仕組みをつくる場と整理している。支え合い団体には、当初から入ってもらい地域もあれば、協議会として課題認識が共有され、生活支援や集いの場について取り組もうとなった時点で、実践者である支え合い団体の人に入ってもらいなど、地域によって関わり方は様々である。

座長：地域支え合い協議会の選択肢の一つとして見てもらえれば、良いかと思う。

構成員：支え合い活動PR動画のDVDでの貸し出しは行う予定はあるのか。

事務局：地域の集まりの場であれば、貸し出しを行う予定である。

4. 各構成員からの情報提供

(1) 地域包括ケアフォーラム

- ・日時：11月16日（土）
- ・場所：神奈川県立保健福祉大学
- ・市民公開講座「赤ひげ先生に聞く今どきの在宅医療」は申込期間を過ぎているが、

その他の企画もあるので気軽に立ち寄って欲しい。

(2) 市民活動サポートセンター催事情報

①SDG s 講演会「横須賀からSDG s を考える～私たちはどんな未来を描くのか」

- ・日時：11月30日（土）
- ・市民活動サポートセンターの20周年記念事業として企画

②アレルギー出前講座

- ・日時：11月19日（火）

③子どもはどうして“イヤイヤ”するの？

- ・日時：12月14日（土）

④生涯現役フォーラム

- ・日時：11月16日（土）
- ・シニアの生きがいづくりや認知症を理解するための講演会、市民活動団体の紹介ブースあり。地域包括ケアフォーラムと同時開催でもあり、是非来て欲しい。

(3) 横須賀地区高齢者福祉シンポジウム

- ・日時：12月8日（日）
- ・場所：神奈川県立保健福祉大学
- ・県立保健福祉大学名誉学長の阿部志郎先生による基調講演、阿部先生、永妻副市長、横須賀市社会福祉協議会の鈴木会長による座談会、市内特別養護老人ホームにおける地域貢献の取り組みなどの発表を予定しており、是非来てほしい。

(4) シルバー人材センター：新規会員の募集と仕事の内容紹介

- ・全市で約1350人の会員がおり、地域で喜ばれる仕事を考えている。
- ・会員登録には、説明会参加後、1週間考えてもらってから登録する。
- ・社会資源のひとつとしてシルバー人材センターを捉えて欲しい。

(5) 若年性認知症市民講演会

- ・日時：12月9日（月）
- ・川崎幸クリニックの杉山孝博先生の講演がある。
- ・若年性をつくると自分のことではないと思われがちであるが、認知症のことを理解するうえでとても参考になるため、是非来てほしい。

(6) 支え合い活動中の事故について

構成員：住民の助け合い活動で重大事故が発生した。社会福祉協議会の福祉サービス総合保障保険の手続中であるが、住民の支え合い活動を市も進めていることもあり、会議の席で事故のことを報告してほしいと、団体代表から申し入れがあった。

庭木の剪定ボランティアの作業中の事故であったが、作業するにあたってヘルメットや安全ベルトの着用など、安全を確保して身を護っていたかが保険会社から問われている。保険は万能ではないため、活動する上で気をつけなければならない。

活動する団体の高齢化が進んでおり、危険性があることを周知したうえで活動を

していかなければならない。それを報告して欲しいとのこと。支えられる人のみならず、支える側の安全も検討して欲しいと、団体から話があった。

事務局：庭木の剪定が最も多い活動であることから、支え合い団体学習会では、庭木の剪定のポイントをテーマ選定した。造園組合から講師を招いて学んだが、安全確保の観点は盛り込まれていなかった。再発防止に向けた検討をする。支え合い団体情報交換会を12月4日に開催予定であり、52団体に案内している。その席で安全確保を呼びかける予定である。

次回会議日程は、2月6日（木）14時、市役所3階 301会議室

高齢福祉課長の閉会の挨拶により会議は終了した。

※この議事録は委員等の発言の要点筆記である。